



日本を代表する山梨のワイン（前編）



Vol.9.1（R7.2.28 発行）

“ワイン県やまなし” 日本ワイン発祥の地

山梨県は約90社のワイナリー※1が集積する日本ワインの発祥の地であり、国内の日本ワインの約3割を生産しています。また、令和元年8月7日には、山梨県知事が山梨「ワイン県」を宣言しました。※2

それにちなみ、今回はワイン   に関連した調査結果を掲載します。



※1 ワイナリーとは - ワインの醸造所を指す英語です。フランス語では、地方によって呼び方が違い、シャトーまたはドメーヌと呼ばれています。

※2 「ワイン県やまなし」特集ページ（富士の国やまなし観光ネット）（<https://www.yamanashi-kankou.jp/taste/wine/wineken.html>）
「日本のワイン生誕の地」（山梨県）（<https://www.pref.yamanashi.jp/miryoku/shoku/wine/index.html>）



ルイ君

本間先生、山梨県知事が「ワイン県」を宣言したんだよね。



ルイくん、山梨県は、日本を代表するワインの生産地なのよ。
都道府県別の日本ワインの生産量を見てみましょう。



本間先生

図1 R5年度 日本ワインの生産量（上位5県）

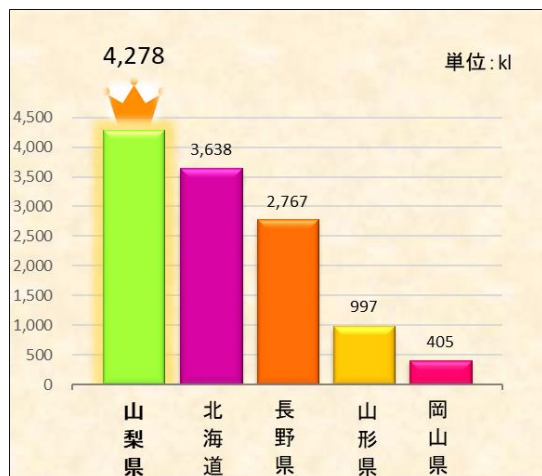
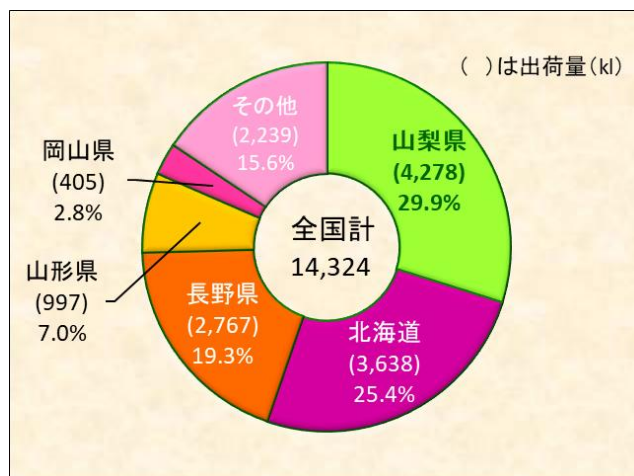


図2 R5年度 日本ワインの生産量と割合



「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（令和6年アンケート）」（国税庁）
（https://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/seizo_oroishiuri/index.htm）



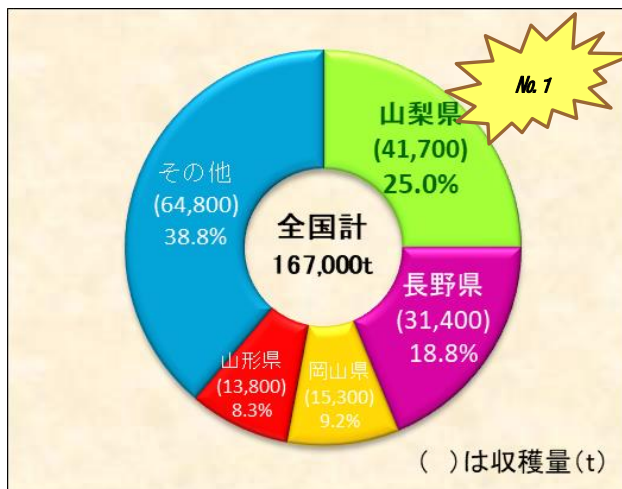
わあ〜、山梨県が1位だ!!!
でも「日本ワイン」って、どういうこと?

国産ワインにも色々あって、原料を外国から輸入していても、日本で製造していれば「国内製造ワイン」と表示できるの。
一方で、「国内で収穫されたぶどうのみを使用し、日本国内で製造された果実酒」だけが、「日本ワイン」を名乗ることができるのよ。



生まれも育ちも『日本』ってことね。

図3 令和5年産 ぶどうの収穫量と割合



そうね、なみちゃん。
次は、このグラフよ。

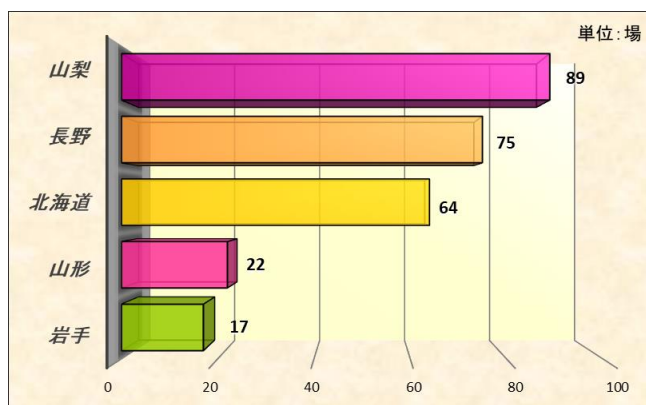


「令和5年 作況調査(果樹) 確報」(農林水産省) (https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kazyu/index.html)



知ってる! 山梨県は全国一のぶどうの産地なんだよね。
ワインの原料がたくさん取れるよね。

図4 R5年度 ワインの製造事業所数(上位5県)



最後は、これ。



「酒類製造業及び酒類卸売業の概況(令和6年アンケート)」(国税庁)
(https://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/seizo_oroishiuri/index.htm)



山梨がダントツだ…。
こんなにワイナリーがあるなんてすごいね！



分かってくれたかしら。でもね、山梨県のすごいところはそれだけじゃないの。
実は、日本のワイン造りは、山梨から始まったのよ。



えー、知らなかった！！

～日本のワイン造りの歴史と山梨～



- 西洋のワインが「南蛮酒」として日本に入ってきたのは戦国時代と言われているが、薬として用いられたり、大名など一部の人の嗜好品としてたしなまれていたにすぎなかった。
- 日本にも在来のぶどう酒がなかったわけではなく、江戸時代中期には、ぶどうをお酒や焼酎につけたぶどう酒が薬として売られていたという。
- 明治時代に入り、殖産興業政策を推し進める政府の下で、明治10年、山梨県令であった藤村紫朗が甲府市に県立葡萄酒醸造所を設立してワイン造りの産業化を図った。
- これに先駆けて、明治7年※、甲府の二人の民間人、山田宥教（やまだひろのり）と詫間憲久（たくまのりひさ）によって、伝統的な技術を応用し、日本ではじめて甲州ぶどうと山ぶどうからワインが醸造されている。
- その後、明治10年に祝村（甲州市勝沼町）で設立された民間初の「大日本山梨葡萄酒会社」から、勝沼の青年、高野正誠（たかのまさなり）と土屋龍憲（つちやりゅうけん）（助次朗・すけじろう）の二人の青年が、西洋ワインの醸造技術を学ぶためフランスへ派遣され、帰国後、日本のワイン造りの発展のために尽力した。

参照：「山梨のワイン発達史」（勝沼町）

※ 「山梨のワイン発達史」では、日本で最初にワインが製造されたのは明治3、4年頃と記載されていますが、近年では、当時の甲府新聞、古文書から明治7年であったことがわかっています。



左) 日本最古のワイン
(甲州市・メルシャンワイン資料館)

右) 高野正誠(左) 土屋助次朗(右)
留学先 フランス・トロフにて

出典：「山梨のワイン発達史」（勝沼町）

ちなみに、山梨県は、甲州ぶどうの発祥の地と言われているの。
日本在来種である甲州ぶどうの由来には、次のような伝説が残っているわ。



～山梨とぶどう～

大善寺伝説

奈良時代の養老2年（西暦718年）、僧の行基が甲斐の国を訪れて修行をしていたところ、満願の日に、ぶどうを持った薬師如来が夢枕に現れた。その姿を木彫りにして安置したのが「大善寺」の由来。

また、それ以来、寺では薬園をつくってぶどうを栽培し、村人にもぶどうの作り方を教えたことが、甲州ぶどうのはじまりと言われている。

雨宮勘解由伝説

文治2年（西暦1186年）、勝沼の住人、雨宮勘解由（かげゆ）が、ヤマブドウの変成種を見つけ、自宅に持ちり改良して育てたところ、5年後に30房あまりの優良な甲州ぶどうを採ることができた。

以後普及に努め、たまたま善光寺参りの途上の源頼朝に献上したところ、たいへんにお褒めの言葉を賜った。

出典：「山梨のワイン発達史」（勝沼町）



本尊薬師如来像※

病氣平癒（へいゆ）の仏様である薬師如来は、左手に薬つぼを持っていることが多いのだけど、大善寺の薬師如来像は、ぶどうを持っているのよ。
ちなみに大善寺の別名は「ぶどう寺」。
本堂は国宝、仏像も重要文化財に指定されているわ。



いずれにしても、山梨県では、ずいぶん古くからぶどう栽培を行っていたのね。

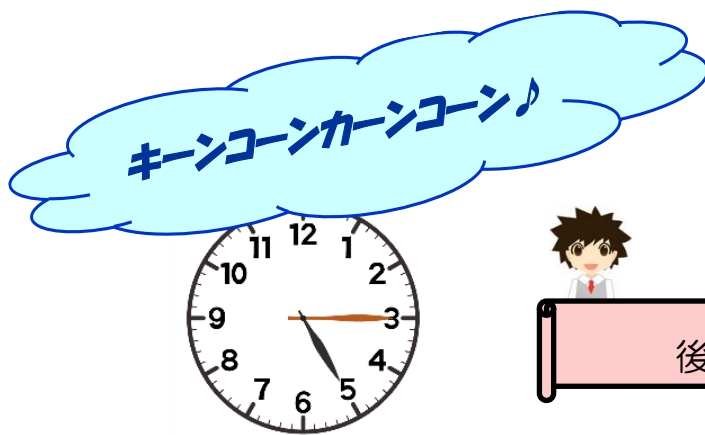


甲州ぶどう（甲州）

そう、江戸時代には、ぶどうは甲州街道勝沼宿などで売られ、勝沼の名物となったそうよ。



※「山梨の歴史を旅するサイト」（公益社団法人やまなし観光推進機構）
<https://www.yamanashi-kankou.jp/rekitabi/jisha/spot/052.html>



国、山梨県及び市町村では、他にも様々な統計調査が行われています。
統計調査に、御協力よろしくお願いいたします。

(参考) 総務省統計局が開設している統計学習サイトを紹介します。

「なるほど統計学園」 <http://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html>

【キャラクター紹介】



今回はなみちゃん、ルイ君、
本間先生が登場しています。

※キャラクターは総務省統計局の承諾を得て使用しています。